

札幌の里塚中央災害復興委員会会長

もりた ひさお
盛田 久夫さん (76)

胆振東部地震により札幌市内で全壊した108棟の8割が清田区に集中。中でも里塚地区は液状化現象で宅地や道路、公園が地盤沈下した。その1カ月後、里塚中央町内会長として住民有志で「里塚中央災害復興委員会」を立ち上げ、被災者の声を集めて札幌市に届けてきた。「里塚が空き地になることが1番心配だった。無我夢中の2年だった」と振り返る。



地震から2年の復興状況を話す里塚中央災害復興委員会の盛田久夫会長

元の住民が回帰 若い世帯も

「半壊した住宅の解体費を補助してほしい」「被災者向け相談窓口の開設期間を延長して」。住民から寄せられる切実な要望や相談に真摯に向き合い、市の担当者に掛け合って実現させてきた。

現在も同地区の34世帯100人がみなし仮設住宅で暮らす。今年3月に里塚の地盤改良工事が終了し、罹災証明書を受けた一戸建て住宅106棟のうち、91棟の所有者が里塚で暮らす意向だ。「当初は土地を売っても二束三文という声もあった中、元の住人が戻っているのはありがたい」

地震で最大3倍沈下した里塚中央は、来年秋までに再整備される。かつては夏祭りなどが開かれていた場所で、完成すれば「里塚が復興した証になる」。それまでは復興委員会の活動を続ける予定だ。「新たな若い世帯も住み始めている。地域に元気が出る」と笑顔を見せた。

(久保吉史)